

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成23年5月12日(2011.5.12)

【公表番号】特表2010-540985(P2010-540985A)

【公表日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2010-051

【出願番号】特願2010-525778(P2010-525778)

【国際特許分類】

G 10 L 19/00 (2006.01)

H 03 M 7/30 (2006.01)

G 10 L 19/14 (2006.01)

【F I】

G 10 L 19/00 213

H 03 M 7/30 A

G 10 L 19/14 400Z

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月17日(2011.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

マルチチャネル・オーディオ信号のオーディオ入力チャネル集合の信号表現について動作し、第1の符号化プロセスと第2の符号化プロセスとを含む少なくとも二つの信号符号化プロセスを伴う符号化手順全体に基づくマルチチャネル・オーディオ符号化方法であつて、

前記第1の符号化プロセスの符号化誤差の表現を含む局所復号された信号を生成するために、前記第1の符号化プロセスに関連して局所合成を実行する工程と、

少なくとも前記局所復号された信号を前記第2の符号化プロセスの入力として適用する工程と、

前記符号化プロセスのうち前記第2の符号化プロセスを含む少なくとも一つから、少なくとも二つの残差符号化誤差信号を生成する工程と、

前記残差誤差信号間の相関に基づいて、さらなる符号化プロセスにおいて前記残差誤差信号の複合残差符号化を実行する工程と

を有することを特徴とするマルチチャネル・オーディオ符号化方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項7】

前記少なくとも二つの残差符号化誤差信号は前記第2の符号化プロセスから生成されることを特徴とする請求項1に記載のマルチチャネル・オーディオ符号化方法。

【手続補正3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項21

【補正方法】変更

【補正の内容】**【請求項 21】**

前記第1の復号プロセスは、メイン・デコーダが入来メイン・ビットストリームに基づいて復号されたダウンミックス信号を生成する復号プロセスであり、前記第2の復号プロセスは、パラメトリック・マルチチャネル・デコーダが前記復号されたダウンミックス信号と入来予測ビットストリームとに基づいて予測チャネル集合を再構築する復号プロセスであることを特徴とする請求項20に記載のマルチチャネル・オーディオ復号方法。